

2017年6月23日(金) FRI

19:00-21:00

* 18:30開場 入場無料 (要事前申し込み)

@京都芸術センター 講堂 定員100名

申し込み

(電話またはWEBサイト、京都芸術センターチケット窓口 (10:00-20:00) にて受付
TEL 075-213-1000 WEB <http://www.kac.or.jp/>)

今回のプロジェクトでは、dot architectsをマスターアーキテクトに迎え、世界各地に拠点を置く異なる背景をもつ建築家が参加し、可動の小パヴィリオン群による仮設の集落をつくる。その際、歴史のある旧小学校とグラウンドを現代的な視点から、いかに活用するかという空間的な想像力が試されるだろう。(五十嵐太郎)

監修

五十嵐 太郎
Igarashi Taro

1967年生まれ。建築史・建築批評家。1992年、東京大学大学院修士課程修了。博士(工学)。現在、東北大学教授。あいちトリエンナーレ2013芸術監督、第11回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展日本館コミッショナー、「戦後日本住宅伝説」展監修、「3.11以後の建築展」ゲストキュレーターを務める。第64回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。「日本建築入門-近代と伝統」(筑摩書房)ほか著書多数。今年の秋、スパイラルにて「窓学」10周年記念展を監修。



今後のスケジュール

設営期間
2017年 8月下旬

展示期間
2017年
8月26日(土)
~9月3日(日)

展示場所
京都芸術センターグラウンド
10:00-20:00 入場無料

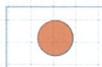
プロジェクト参加建築家

マスターアーキテクト



ドットアーキテツツ
dot architects

家成俊勝、赤代武志により設立された建築家ユニット。大阪・北加賀屋にて、アート、オルタナティブ・メディア、アーカイブ、建築、地域研究、サークル、NPOなど、分野にとらわれない人々や組織が集まる「もうひとつの社会を実現するための協働スタジオ」コーポ北加賀屋を拠点に活動。設計、施工のプロセスにおいて専門家・非専門家に関わらず様々な人との協働を実践している。設計だけに留まらず、現場施工、リサーチプロジェクト、アートプロジェクトなど様々な企画にもかかわる。現在のメンバーは家成俊勝、赤代武志、土井亘、寺田英史、富地敬子、池田藍の6名。



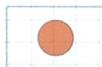
加藤 比呂史
Kato Hiroshi

1981年東京生まれ。2014年武蔵工業大学(現・東京都市大学)卒業後、2004-2010年 藤本社建築設計事務所勤務。2010年よりデンマーク、コペンハーゲンに渡りCOBE、KATOxVictoria、Ramboll、Tredje Naturなどで主にヨーロッパでの建築設計、公共空間のコンセプト開発・開発に従事。現在に至る。計画地によって異なる、気候による習慣や人々の性格などに敬意を払いインスピレーションを受けると同時に、ある側面での「非常識」を提案することで、新たな建築空間や公共空間の提案をしたいと考えている。



島田 陽
Shimada Yo

1972年神戸生まれ。1997年京都市立芸術大学大学院修了後、直ちにクドアーキテツツ/島田陽建築設計事務所設立。ほぼ独学で今に至る。「六甲の住居」でLIXILデザインコンテスト2012金賞、第29回吉岡賞受賞。「石切の住居」で日本建築設計学会賞大賞(2016)、「ハミルトンの住居」でHouse of the Year Award @ AIA Brisbane Regional Awards(2016)を受賞。著書に「7IP #04 YO SHIMADA」[現代建築家コンセプトシリーズ22/日常の設計の日常]等。神戸大学、神戸芸術工科大学、広島工業大学、大阪市立大学等非常勤講師。京都造形芸術大学客員教授。



スヴェン・プファイファー
Sven Pfeiffer

1972年生まれ。ハンブルク応用科学大学、マイアミ大学、シュテデル大学で建築を学んだ。これまで、NOX(ロッテルダム)、KSMS(ベルリン)などの設計事務所に勤務し、KSMSではソウルナム・ジュン・バイク美術館の設計に携わった。2010年、建築と芸術のための設計事務所SPARCを設立。2010~2014年、munster school of architecture (msa)の教授兼デジタル構想・設計部門ディレクター。2015年より、ベルリン工科大学デジタル建築プロダクション学科長・教授。2014年秋、ヴィラ鴨川にレジデンス滞在した。



ルードヴィヒ・ハイムバッハ
Ludwig Heimbach

1971年生まれ。ベルリン工科大学とウィーン応用美術大学で建築を学んだ。2004年に自身の建築事務所を設立し、ケルンとベルリンを拠点に、都市における内外の境界・移行部分の空間コミュニケーションや住まいをテーマに建築に取り組み、自身のプロジェクトは、第12回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展(2010年)をはじめ、数々の出版物でも紹介されている。これまでmunster school of architecture (msa)やPeter Behrens School of Arts (PBSA)で教鞭をとる。2016年春、ヴィラ鴨川にレジデンス滞在した。



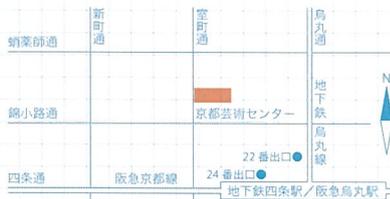
セバスチャン・マルティネス・バラ / バンジャマン・ラフォール
Sébastien Martinez-Barat and Benjamin Lafore

2016年、ペイズジスト新人賞受賞(フランス文化・通信省より若手建築家に与えられる賞)。ミス・ファン・デル・ローエ賞に2度ノミネートされる。2014年、ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展にてベルギー館のキュレーターを務める。現在、南仏のアートセンター・ヴィラノアイにて、建築のアソシエイトキュレーターを務めている。2016年度、ヴィラ丸山にレジデンス滞在した。



ボランティア募集

京都芸術センターでは、「建築Symposium一日独仏の若手建築家による」の設営・撤去を手伝うボランティアを募集しています。詳しくは京都芸術センターウェブサイトをご覧ください。
<http://www.kac.or.jp/>



京都芸術センター
〒604-8156
京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2
TEL 075-213-1000 FAX 075-213-1004
<http://www.kac.or.jp/>
地下鉄烏丸線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」
22番・24番出口より徒歩5分。
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

